

# 都農町地域資源マップ 13班

(13班 :岩本妃生, 湯浅凜, 林翼, 東祐輝)

1

## 洋樽の有明産業 都農工場

今回、直接お話を聞きすることはできなかったが、お電話のうえメールという形で質問にご回答していただくことができた。有明産業さんについて説明すると、元々、京都にて一升瓶を入れるケースの生産を行っていたそうだが、地元の酒造会社や町からの誘致により、約四十年前から都農町にて酒樽の製造を始めたのが都農町との関わり方の始まりらしい。現在は樽の原料には特産の萩松や国産の栗・桜の木のみを使用する。当時の都農町と合併で、約30年前に都農ワイナリーを設立し今や名物となった都農ワインを醸造するなど、都農町にあるからこそできる洋樽製造企業として活動されているそうだ。また、地域雇用に対してどのような取り組みをされているかという質問には、工場の社員のうち、殆どが都農町もしくは近隣の日向市に在住しており、充実した研修や教育プログラムが存在するなど、地元で優秀な社員教育に力を入れていると回答していただいた。今回載せた質問以外にも、汎山の質問に真摯にご回答いただくことができた。

2

## 八坂神社

正確な建立年月自体は今回の実習で明らかになることはできなかったが、昭和51年に新しい拝殿が建築された、という記念碑を発見したため、それ以前からこの神社は地域のお社として存在していると思われる。境内には拝殿・鳥居の他に建築物は無く、閑静な佇まいとなっている。なお、拝殿自体の扉は閉まっているため、お賽銭を奉納する、直接お参りする等の行為はできない。

3

## 観弘山 貫川寺

貫川寺は宮崎県児湯郡都農町にある高野山真言宗の寺院である。本尊は十一面観音立像であり、九州八十八か所百八霊場のうちの第3番札所として地域住民から愛されている。境内には、死者の霊を導く水掛地蔵や生を受ける前に亡くなった赤子を供養する水子地蔵、安産と子の健やかな成長を願う子育て大師が鎮座されている。住職の方は用事にて外出される直前だったにも関わらず、快くお寺の説明をしてくださった。本当に感謝である。

4

## 名貴地区構造改善センター

この名貴地区には、昭和五年に「分けいつても分けいつても青い山」の歌で知られる放浪の歌人種田山頭火が訪れており、その際に詠んだとされる歌が彼を顕彰し歌碑に刻まれている。

「大石小石かれがれの水となり」  
また、この歌碑の隣にも記念碑が存在し、そこには以下のように記述されていた。かつてこの地には、新高町に本拠地を構えた旧陸軍の落下傘部隊（現陸上自衛隊第一空挺団の源流）の宿舎があり、終戦後の払い下げを受けて元の集会所が建設された。そしてその建物の老朽化を受け新たに現在の構造改善センターが建設されたということである。  
この場所のことは当初は認識していなかったのだが、探索中に偶然発見し、地域の魅力にもり得る貴重な発見だと感じたため、載せることとした。

5

## 農地改良事業完了碑

こちらも左と同じく、探索の途中で発見した。下調べ、地図等で分かったように、この町、そしてこの地区では古くから梨やブドウの栽培が盛んであったが、気候の変動や経年変化に伴い、虫害や土質の劣化が年々悪化し、収穫量にも影響が出る事態となってしまっていた。そこで平成6年から平成22年の長期にわたり、当地にて農地改良事業が行われたため、その終了を記念してこの地に完了碑が建てられた旨が書かれていた。

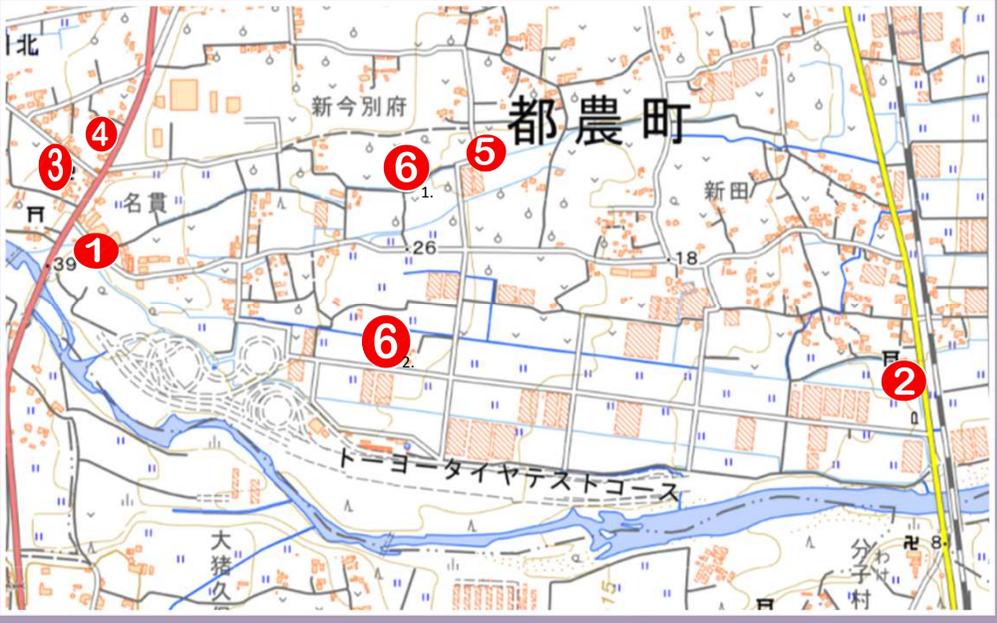
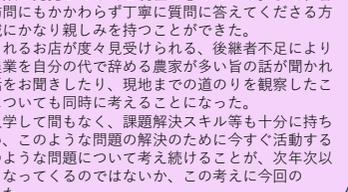
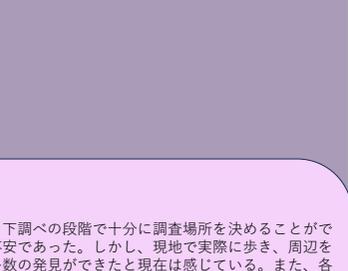
この碑と有明産業の成り立ちから、都農町の農業における果樹生産の比率の高さと、定着を目指すための長年にわたる努力を知ることができよう。

6

## トマト農家・梨・ブドウ農家の方

今回の実習で、私達は2人の農家の方にお話を伺うことができた。どちらとも突然お伺いしたにもかかわらず真摯に質問等にお答えくださった。

1人目は成田さんという方で（地図中1）、梨やブドウの栽培をしていらっしゃる方だ。訪問時は庭の花水の手入れをされており、雑草花やツツジの花が綺麗に咲き誇っていた。成田さんは元々父親も代からこの地で農業をされており、かつてはこの一帯の農地を持たれていた。しかし、数年前に罹った病気をきっかけに廃業され、この広大な農地は現在、株式会社都農ファームに貸されており、「べにはるか」という品種の甘藷が栽培されている、ということを教えてくださった。  
もう1人の方(地図中2)は、当町の不手際につきお名前をお伺いすることが出来なかった。しかし、当地にて30年以上ミニトマトのハウス栽培を行っていらっしゃる夫ペテラの方であると伺った。訪問時はミニトマトの収穫期を過ぎており、ハウス内のポリフィルムの張り替えをされていた。



## 感想

今回のフィールドワークでは、下調べの段階で十分に調査場所を決めることができず、十分な活動ができるか不安であった。しかし、現地で実際に歩き、周辺を調べたことにより想定よりも多数の発見ができたと現在は感じている。また、各項目でも述べたように突然の訪問にもかかわらず丁寧に質問に回答して下さる方ばかりであったなど、この地域にかなり親しみを持つことができた。  
その一方で、閉業されたと思われるお店が度々見受けられる、後継者不足により長年にわたり続けられていた農業を自分の代で辞める農家が多い旨の話が聞かれたように、地域の方々からお話を聞きしたり、現地までの道のりを観察したことなどで都農町でみられる諸課題についても同時に考えることになった。  
現在、私たちはこの学部に入學して間もなく、課題解決スキル等も十分に持ち合わせていない状態であるため、このような問題の解決のために今すぐ活動することは難しいが、普段からこのような問題について考え続けることが、次年度以降に実践していく上で基礎となってくるのではないかと、この考えに今回のフィールドワークを通じて至った。

有明産業株式会社  
都農工場